千鳥會報

発行所
岡山県立笠岡高等学校
同窓会
岡山県笠岡市笠岡3073の2
事務局
☎ 0865（62）5128
印刷
㈱ 正文社印刷所

問題発見力と行動力

同窓会会長　浅野 和志

笠岡高校同窓会千鳥会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

約三年間も続いたコロナ騒動も落ち着き、やっと普通の日常が戻りつつありますが、ここ最近人工知能の進歩が急に騒がれ始めました。飛び交うカタカナの専門用語には全くついて行けていませんが、自動運転、無人コンビニ、自動翻訳、音声や顔認識、何でも質問すると無難な答えが瞬時に返ってくる機能、どれもこれも素晴らしい技術だと感心します。今まで人間がやっていた多くの仕事や作業を人工知能が代替してくれて共存していく時代が間違いなく来るでしょう。過去の膨大なデータを学習して与えられた問題に対して瞬時に正しく答える能力を持つ人工知能に、もう人間は到底敵わないと思います。但し、過去に例がないことへの対応や、新しい問題を発見する能力「問題発見力」はまだ人間に軍配が上がると思います。あと今のところ人間でないと出来ないことがあります。それは熱意を持った「行動力」と、その行動を支えてもらうための「人徳」です。いつか人工知能にも「行動力」と「人？徳」が備わるかもしれませんが、人工知能の進歩に伴って、教育現場で昨今「才」の教育より「徳」の教育が見直されているのも頷けます。

昨年千鳥は創立百二十周年行事を実施いたしました。一人の少女が「女性も台所に立つだけでなく世界を目指して学ばなければいけない」と強い問題意識を抱き、熱意と行動力で設立された千鳥の前身、笠岡町立笠岡女学校。百二十年以上前にダイバーシティ（多様性）とグローバル化を目指した少女が初代同窓会長の長野長さんです。まさに千鳥の設立こそ「問題発見力」と「行動力」、「人徳」の賜物です。生徒数の減少が千鳥の大きな課題となっていますが、先生方、同窓生在校生、地域の皆さんが一丸となって、長野長さん、そして人工知能に負けないように問題を見つけ出し、答えを絞り出して一つずつ行動に移していくことで今以上に魅力ある千鳥にできると思っています。

引き続き魅力ある千鳥にするために同窓会の皆様の一層のご支援、ご協力をお願い致しますとともに、ご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

ごあいさつ

校長　小寺 邦彦

千鳥会の皆様には、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

本校は令和三年に創立一二〇年を迎え、今年度で創立一二二年目を迎えました。昨年度は様々な記念行事を実施し、生徒が保護者の皆様や同窓生の皆様とともに、千鳥一二〇年の伝統と誇りを実感できる一年となりました。

コロナの影響を受ける環境においても生徒たちは「文武一道」の精神のもと、勉強に部活動に真摯に取り組んでいます。その姿は、岡山県南西部の普通科進学拠点校としての進学実績や部活動の素晴らしい成果にも表れています。多くの生徒が国公立大学へ進学し、陸上競技部が中国大会に出場し、書道部が全国高等学校総合文化祭への出場を決める等、素晴らしい実績をあげています。また、サイエンス部が、笠岡湾の環境を考えるワークショップを笠岡市立神内小学校の児童を対象に開催し、高評価を得ています。

本校の学校教育目標は、「志高く自らの人生と社会の未来を拓く人を育てる」です。この目標のもと「未来開拓力」の育成を目指して、「総合的な探究の時間（ＡＣＴ）」を中心に、教科活動や特別活動と往還した体系的なキャリア教育に取り組んでいます。このキャリアプログラムを活かして、今春も多くの卒業生が志望校への合格を果たしています。

普通科の改革が進む中で、各高校は、魅力化・特色化が求められています。そうした中で本校は、「未来開拓型カリキュラム」を充実させ、少人数・習熟度別の授業やＩＣＴの利活用等により、学びの個別最適化を図っています。また、学校独自の科目を用意し、知識・技能を活用した思考力・判断力・表現力を養成しています。さらに、芸術系や体育系等の多彩な選択科目を設け、主体的な学習を可能にしています。令和三年度入学生からは、新たに「人文総合」・「理数総合」・「探究先進」の三つの学びのコースを設け、よりきめ細かく進路目的に合わせて、生徒の夢の実現を図っていく体制を整えています。また、ＧＩＧＡスクール構想のもと、生徒一人一台端末としてｉＰａｄを導入し、主体的・協働的な学びを推進し、デジタルシチズンシップ教育にも力を入れています。

千鳥で過ごす三年間で、生徒一人一人が夢に向かって全力で挑戦し、可能性を最大限に伸ばすことができるよう、教職員一丸となって、千鳥の新しいステージを創り上げています。千鳥会の皆様には、引き続き御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

東京支部総会報告

東京支部
（平成五年卒）坂本　寛和

二〇二三年（令和五年）千鳥会東京支部総会を五月二十七日にアリスアクアガーデン品川店において開催いたしました。

ご来賓として、同窓会会長の浅野和志様、近畿支部代表の脇坂典明様、笠岡市副市長の松浦良彦様、笠岡高校から小寺邦彦先生、三宅一也先生の五名のご列席を賜りました。

また、同窓会の規模としては、昨年を大きく上回る総員六十六名となりました。新型コロナウイルス感染症の位置付けが五類感染症に移行したことも、参加を後押しするきっかけになったとともに、やはり皆様千鳥会を心待ちにされていると強く感じました。

総会では、これまでのビュッフェスタイルとアルコールを提供し、校歌斉唱や写真撮影など従来のスタイルに戻しました。参加された皆様は、久しぶりに対面でアルコールが飲めるとあって、とても会話が弾んでおり、会場内は熱気で包まれておりました。

年度幹事を引き継いだ時点では、依然としてコロナ禍の先行きも不透明であり、準備もどのように進めていけばいいのか悩んだこともありました。その中で、支部役員の皆様のバックアップや年度幹事を手伝って頂いた同級生のお陰で無事に会を終えることができました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

引き続き、東京支部の活動にご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げ、東京支部からの報告とさせていただきたいと思います。

近畿支部より

近畿支部長
（昭和四十年卒）陶山　英志

令和五年五月二十二日、近所の開業内科医院で六回目の新型コロナウイルスワクチンを接種しました。一回目は二〇二一年六月でコロナ感染が世界に急拡大し、先の読めない不安な時期でした。ご不幸にもコロナに感染し亡くなられた方や、重症になられ辛い時期を強いられた方が続出し、明日は我が身と身構えつつ、マスクをして予防をするしか方法がありませんでした。それから二年でワクチンが普及し、変異コロナ菌も少し穏やかになり世界が落ち着きを取り戻しつつあります。

例年九月の最終日曜日に開催されていた近畿支部総会の記録を紐解くと第二十六回総会が二〇一七年に白楽天で開催された後、二〇一八年は台風二十四号襲来で前日に中止を決定し、二〇一九年は阪神ホテルにて開催、その後は宴会などの自粛ムードで三年間は近畿支部総会開催を見送りました。

今年は近畿支部総会を開催いたします。令和五年九月二十四日（日）、大阪工業大学梅田キャンパスＯＩＴ梅田タワーの二十一階レストラン「菜の花食堂」で行います。（十二時～十四時頃）（ＪＲ大阪駅より徒歩五分）久々の開催なので出席者数などの不安はありますが、開催することに意義を求め幹事一同頑張りますので、お誘いの上多数のご出席をお待ちしています。

先輩から⇒ ⇐後輩から

頑張った同窓生にエールを送る

昭和四十五年卒
大島　俊明

コロナの流行で取りやめになった、古希の同窓会を今年の五月六日に実施しました。前回の還暦同窓会の六十二名を上回る六十四名の参加となりました。遠くはアメリカ合衆国からの参加や、卒業から五十三年目で初参加のメンバーもあり、会場は懐かしい再会や、その変貌ぶりに驚きと爆笑の渦に包まれ、大いに盛り上がりました。

昭和45年卒 岡山県立笠岡高等学校 同窓会　2023年5月6日　於 倉敷アイビースクエア

「出会い」「ご縁」を活かして、豊かな人生をおくりたい

昭和五十五年卒
笠原　久司

昭和五十五年（一九八〇年）の卒業から四十三年が経過しています。思えば、高校時代は三年間しかなかったのですが、アルバムをみれば、思い出も蘇ります。

十年前、初めて同窓会に参加して、同期会にも参加しました。その縁で、今回この原稿を書く機会をいただきました。何を書こうかと考えました。聞けば、笠高も百二十年の歴史を経て随分様変わりしているようです。そして今後も変わっ

↑ウラ面に続きます。

ていくことでしょう。また、機会を作って、ゆっくり、校内の展示、ホームページ等を見たいものです。

私も、六十才を過ぎて、「出会い」「ご縁」という事を深く感じるようになりました。もちろん「善い出会い」「善いご縁」です。（逆に、悪いものには、近づかない、避ける事が大事です。）「善いご縁」には、できるだけ関わってみて、何を感じるか、何が見えてくるか、今後の人生をおくる上で、楽しみだと思います。

この記事を読んだ、あなたも笠高との「善いご縁」を活かし、総会・同期会にも参加してみてください。今後の人生にきっと為になる何かを感じることでしょう。

恩師の言葉

平成五年卒　久我　久徳

卒業して三十年、思い出って結構忘れるものですね。思い出そうとしてもなかなか出てきませんが、サッカー部に所属していたことは覚えています。

中学では野球部だったサッカー技術の無い私が試合に出場するには、スライディングで相手を倒しながらボールを奪う自称「炎のディフェンダー」になるしかありませんでした。野球では二盗、三盗だったのが、サッカーでは二倒、三倒、七転八倒という感じ。今の近代サッカーでは通用しませんが、当時の顧問はそんなプレースタイルを受け入れて下さいました。

その顧問が、試合前に選手たちにかける言葉はしっかりと覚えています。「勝たんでもええ、負けるな！」私はこの言葉を顧問は「試合には勝てなくてもしょうがないが、自分自身には負けるな。諦めずに戦い抜け。それは何事に関してもだ！」と、サッカーを通じて生きていく上で大切なことを教えてくれていると勝手に良いように解釈し、テスト前日は諦める（眠気に負ける）ことなく夜通し勉強（俗にいう一夜漬け）して赤点を免れていました。こうやって夜を徹して試験を乗り越える作戦のことを私の中では「津軽海峡冬景色作戦」と言っています。上野発の夜行列車～♪顧問が誰か知っている人にしか分からない内容で申し訳ございませんが、千鳥で教えていただいた、私にとってはとてもとても大切な言葉をご紹介させていただきました。

花水木とともに

平成十五年卒　金原　承哲

卒業して十五年が経った平成三十年の春、私は鴨方六条院にあるお寺に向かっていた。ここに来るのは十年ぶりだった。

東京の大学を卒業し、銀行へ入行。十三年勤務したのち、現在は祖父から続く小さな会社を継いでいる。妻と二人の子どもにも恵まれ、何気ない日々を過ごすなか、葉桜を見るたびに高校時代を思い出す。

当時、千鳥には国際科学コースなるものがあり、文理選択こそクラス分けがあったが、三年間同じクラスの同級生も多かった。勉強や部活動、修学旅行、千鳥祭。彼女とともに皆で青春の時を過ごした。そして卒業式の日、私たちは校舎の裏に永続性の花言葉を持つ花水木を植えた。

お寺で久しぶりの近況を報告したあと、同級生たちと一緒に彼女の寄島の自宅を訪ねた。そこにはあの日のままの彼女がいた。十七歳の笑顔に手を合わせ、皆で想いを馳せた。

すでに私たちは彼女の倍以上の時を生きている。彼女は私たちに別れを教えてくれた。大人になった今、その意味がようやく理解できたような気がする。

桜が散る頃、花水木は美しい花を咲かせる。彼女はあの花水木とともに私たちの中で生き続けてゆく。

彼女のニックネームはハッチ――ハッチポッチステーションが好きな笑顔あふれる女の子だった。

小さな命が教えてくれたこと

平成二十五年卒　藤田　彩加

毎朝バスに揺られ、英単語を暗記していた頃の私には「助産師になる」という夢があった。資格を取るために希望の大学に入りたくて、テストで良い点を取れるよう、日々勉強していた。

その後、努力の甲斐あって私はついに夢を叶えた。しかし就職してすぐ、私はある違和感に気付いた。今までの考え方では、うまくいかないのだ。点数や他人の評価が自分の価値のように思え、欠点を埋めようとするほど空回り。いつしか自分と周りを比べ、「私なんて」が口癖になっていた。

そんな私を救ってくれたのは、小さな命たちの存在だった。朝陽のようにゆっくりと地球に産まれてくる赤ちゃんの頭の感触とエネルギーをこの手で感じながら、私は次第に気付いていく。お産の時は、「無事に産まれますように」とその場の誰もが祈っている。そう、無事に産まれるだけで充分だったはずなのだ。評価や点数は夢を叶えるために必要かもしれない。だけどそれは自分の価値を決めるものではなかったのだ。命が芽吹いたときから、みんな価値ある存在なのだから。

卒業から十年もの月日が経てば悩みも変わるが、過去の自分のお陰で、必ず乗り越えられると信じられるようになった。さらに十年後はどんな景色を見ているのか、楽しみで仕方がない。

笠岡高校マスコット「チドリン」

きっかけ

令和五年卒　坂本　嘉蓮

私は笠岡高校を卒業して二ヶ月経ちますが、高校での日々や先生方のことをよく思い出します。

私は今大学で勉強をしている身で、先輩方のように社会に出て活躍しているわけではありません。ですからここでは、笠岡高校に通う中で成長したことや感じたことを振り返りたいと思います。

まず、私は千鳥で出会った先生方や友人と関わる中で、性格面や精神面、物事に対する考え方がかなり変化したと思います。千鳥には真面目な人、面白い人、個性的な人など、様々な人が集まっていて、その人たちのおかげで今の自分があると感じています。

私が千鳥で過ごした三年間から、後輩に伝えたいことがあります。それは「一日一日を大切にして、後悔しない事」です。同じ日は二度とありません。だから、やりたい事をやった方がいいと思います。私は千鳥でやりたい事をやり過ぎて、友人に迷惑をかける事もしばしばありましたが、どれもやって良かったと思うことばかりで後悔はしていません。高校での三年間は本当にあっという間です。しかし、これからの自分を形作る大切な時間です。だからこそ、傍にいる人たちとの時間を大切にして、「今」を大切にしていってください。

部活動報告 R4年度

●陸上競技部
- 岡山県高等学校総合体育大会
  男子800m／2位
  男子やり投／5位
  女子7種競技／8位
- 岡山県高校陸上選手権
  男子800m／5位
  男子砲丸投げ／8位
  男子円盤投げ／7位
- 岡山県高校新人陸上大会
  男子800m／2位
  男子500mW／5位
  男子円盤投げ／7位
- 中国高校陸上選手権　出場
- 中国高校新人陸上選手権
  男子800m／5位

●バドミントン部
- 岡山県高校秋季大会
  女子学校対抗／ベスト8

●吹奏楽部
- 岡山県アンサンブルコンテスト
  トランペット三重奏／銀賞
  サックス四重奏／銀賞

●書道部
- 全国高等学校総合文化祭
  東京大会　書道部門
  ／岡山県代表
- 高校生国際美術展（書の部）
  ／奨励賞
- 全日本高校・大学生書道展
  ／準優秀賞
- 岡山県児童生徒書道展
  ／書道連盟会長賞・
  特選・佳作

●美術部
- 岡山県高校生美術コンクール
  ／金賞

●サイエンス部
- 生物系三学会中四国地区合同大会2022年島根大会／出場
- 岡山県海ごみセミナー「学んで実践!!瀬戸内ゴミ0作戦」／出場
- 全国ユース環境活動発表会　中国大会／出場

令和5年度入試結果

◎国公立大学
大阪1名、名古屋1名、九州2名、東京工業1名、千葉1名、岡山26名、広島4名、鳥取4名、島根2名、山口5名、香川8名、愛媛6名、高知3名、九州工業2名、鹿児島1名、岡山県立3名、福山市立8名、下関市立4名など

合格者合計96名

◎私立大学
慶応1名、同志社7名、立命館11名、関西5名、関西学院12名、京都産業1名、龍谷10名、近畿18名、ノートルダム清心24名

合格者合計236名

※合格者数には既卒生を含む

＊ 事務局よりお知らせ ＊

ふるさと岡山“学び舎”環境整備事業

母校 笠岡高校の応援をよろしくお願いします。

笠岡高校では、ICT 機器を活用した新たな学びのスペース整備を予定しています。詳細は本校 HP をご覧ください。

＊インターネット申込
ふるさとチョイスの HP →
岡山県 →「ふるさと岡山 “ 学び舎 ” 環境整備事業」
※『笠岡高校』を指定してください。

お申込の流れ

千鳥教育ボランティア募集

笠岡高校では、学校での様々な活動に「千鳥教育ボランティア」としてご協力・ご活動いただける方を募集しています。

詳細はインターネット「笠岡高校　千鳥教育ボランティア」で検索してください。